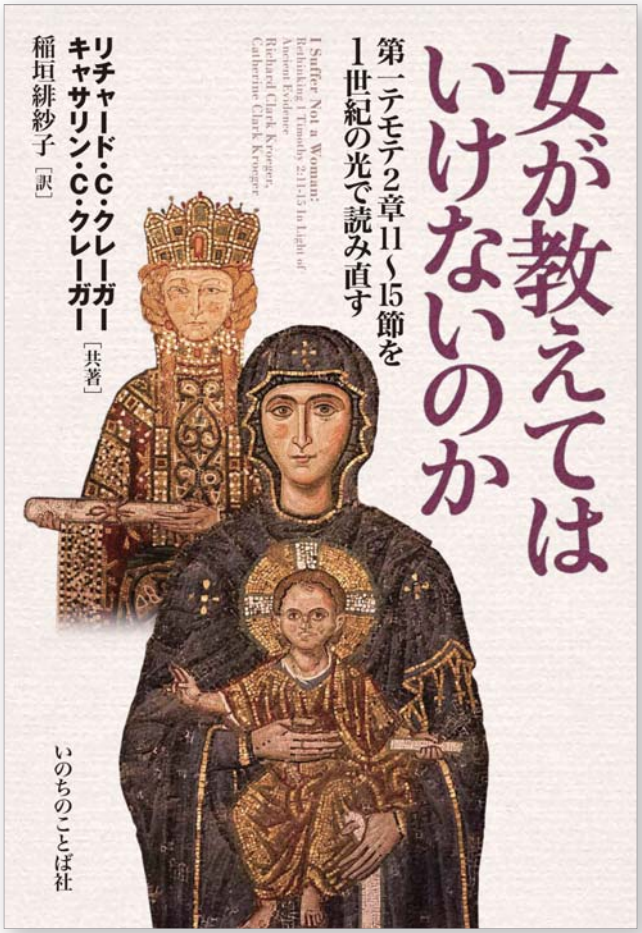
女性が指導者になることを
神は禁じたか？



女が教えてはいけないのか

第一テモテ2章11〜15節を 1世紀の光で読み直す

リチャード・C・クレーガー、
キャサリン・C・クレーガー 共著
稲垣緋紗子 訳

キリスト教会が女性教職・指導者を否定する根拠とされてきた教え「女が教えたり支配したりすることを許しません」は、普遍的な聖書の要求なのか？　この書簡が送られた時代、テモテが牧会していた女神信仰の本拠地エペソの教会にパウロが求めたことの真意を、古代の資料と厳密な釈義から解明し、聖書全体が女性リーダーを肯定していることを明らかにする。

私たちの目的は、人は神が導くどんな所のどんな働きでも、男も女も平等に、献身と奉仕へ召されることを、聖書を根拠として主張することである。本書は、しばしば女性による宣教を妨げ、議論の的となっている箇所、すなわち第一テモテ2章12節を、入念かつ細心の注意を払って論じようとするものである。この箇所は、女性の役割と地位についての議論で、あまりにもしばしば要となっている。そういうわけで読者は大量の関連資料に触れることになる。本書に登場する資料の多くは古代エペソの宗教と文化を扱っており、その分野を専門とする者でも容易に手にすることのできないものである。　（本文より）

四六判 296頁 定価2,420円（本体2,200円＋税）
ISBN978-4-264-04412-3 C0016
いのちのことば社　卸コード 20040